

杵築大社の富士山

所在地 境南町2-10 杵築大社内
所有者 宗教法人杵築大社
指定 昭和47年(1972)3月16日



この富士山は、明治14年(1881)5月、境村をはじめ埼玉県安松村(現・所沢市)を含む近隣22町村の講の協力により作られたものである。

富士山に対する信仰は、山岳信仰の一種で、富士山そのものを神とあがめ、平安時代より山岳信仰としての富士登山が始まったといわれ、江戸時代に富士講の普及とともに信仰登山がさかんとなった。

この富士山は、三多摩地区では清瀬市中里の富士山に次いで大きく、富士講の規模の大きさを示している。

本市を始め付近の富士講の講中が富士山に参拝する際に、先達をはじめ講員は、この山に祈願し、ここを出発点としている。境地区でも行事日(毎月17日)ごとにこの場所に集合し、仙元大神を祈ったものである。

なお、江戸時代に、このような独自の宗教運動を展開した民間信仰、とりわけ富士講は、幕府の宗教政策に反したため、寛保2年(1742)を初見として再三にわたり禁令が出されている。前出の「河田家古文書」のうち、嘉永2年(1849)10月の「富士講御制禁御受書」もその一つである。

成蹊学園のケヤキ並木

所在地 吉祥寺北町3丁目
所有者 学校法人成蹊学園・東京都
指定 昭和46年(1971)4月6日

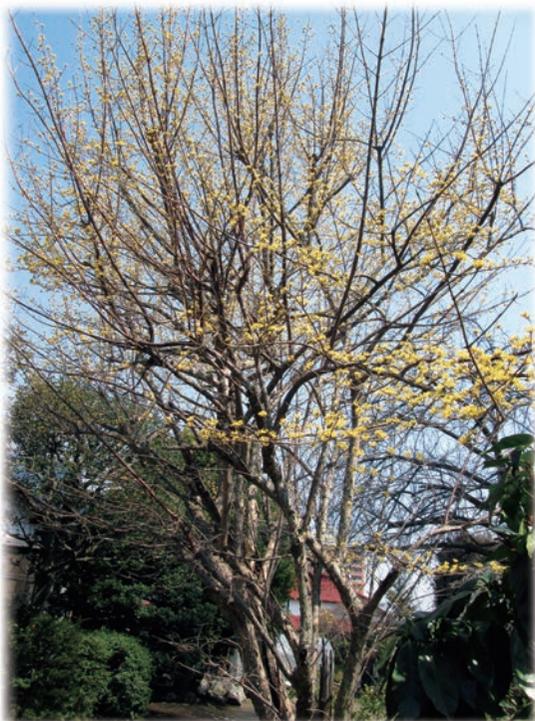


このケヤキ並木は、大正13年(1924)5月、成蹊学園が池袋より現在地に移転した際、学園設計者の三菱地所株式会社により道路予定地に2列の並木として600mにわたり植栽されたものである。並木にケヤキを選んだのは、それが武蔵野台地の特色ある樹木であり、また同学園の教育方針の象徴にふさわしいものであるという理由からであった。なお、植栽時の樹齢は25~30年の若苗木で、これらは玉川・用賀・狛江などから運ばれたと伝えられている。

この並木は、五日市街道より北に正門を経て本館前まで、約150mの間と、正門より西側道路450mの間に約140本のケヤキが植栽されている。その高さはいずれも12m前後で、樹齢は約130年と推定される。この並木が四季に応じて見せてくれる風景は実に素晴らしいものである。

井口家のサンシュユ (非公開)

所在地 八幡町3-8-3
所有者 個人
指定 昭和46年(1971)4月6日

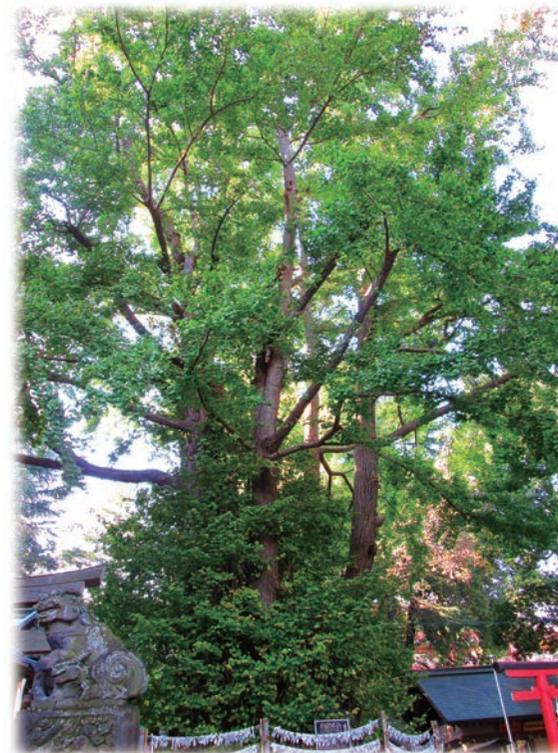


井口家の長屋門をくぐり屋敷内に入ると、すぐ右手にサンシュユの木がある。この木は享保期(1716~1736)の武蔵野新田の開発に功労のあった井口家の先祖が、他村の名主とともに幕府から褒賞として賜ったものといわれ、その植栽年代は寛延3年(1750)ごろと伝えられている。なお、この樹木の原産地は中国および韓国で、その種実が薬用としてわが国に輸入されたのは享保7年(1722)といわれている。

このサンシュユの木は、根元の周囲が1.7mもあり、内地産としてはまれにみる巨木である。そして毎年3月上旬にはたくさんの黄色のかわいらしい花をつけている。

杵築大社の千本イチヨウ

所在地 境南町2-10 杵築大社境内
所有者 宗教法人杵築大社
指定 昭和47年(1972)3月16日



主幹の寸法 樹高約25m、目通り幹囲2.7m~1.29m、枝張り17m四方、根元周囲約4.2m。雌木で、主幹5本、支幹40数本、樹勢はすこぶる旺盛である。

現状からみて、昔、相当樹齢のイチヨウがあり、何らかの原因(落雷等)により地上部は枯死(約200年以上前)し、その根際より生じた支幹(ひこばえ)が成長して現在の主幹となったものと推定される。

この5本の主幹の周囲には、相当に育った40数本の2代目のひこばえが林立している。多くの天然記念物は単幹老樹であるが、このような株立のイチヨウはあまり類例がない。

源正寺のイヌツゲ

所在地 緑町1-6 源正寺内
所有者 宗教法人源正寺
指定 昭和48年(1973)2月8日



イヌツゲはモチノキ科の常緑灌木で、初夏にクリーム色の細かな花が咲く。このイヌツゲは、樹高約4m、根回り約2.25mあり、幹囲は1.9m(地上約0.7m)ある。樹齢は、源正寺が建立されたといわれる寛文3年(1663)頃に植栽された、350年を越えているものと推定される。

このイヌツゲは幹囲に比べ樹高が低く、低部より横枝が出ているのが特徴で、これは若木の時に独立樹として植栽され、観賞樹として手入れされたためと思われる。

高橋家の大ケヤキ

所在地 境3-10-26 境三丁目緑地公園内
所有者 武蔵野市
指定 昭和50年(1975)3月13日



根元の周囲約4.9m、樹齢約340年以上と推定され、都天然記念物に指定されている「吉祥寺旧本宿のケヤキ」とほぼ同程度の大きさを誇っている。

この大ケヤキの西側にもほぼ同じ大きさのケヤキがあって、門柱のように一対となっていたが、先年南側の養蚕室が全焼したときに罹災し、枯死したといわれている。

また、東側の屋敷境にも数本の樹齢100年未満のケヤキがあり、遠方よりは屋敷林の形態を残存している。

高橋氏より市が譲り受け、「境三丁目緑地」として整備し、平成19年(2007)4月1日に開園した。

井口家の大ツバキ （非公開）

所在地 八幡町3-7
所有者 個人
指定 昭和50年(1975)3月13日



樹高約7m、根元周囲が2mもあり、樹齢が約290年以上と推定される。井口家の屋敷裏の畑の奥に、同家の屋敷神として祀られている稲荷社の境内にある。ヤマツバキで、正木の生垣に囲まれて、こんもりとした姿を見せている。

以前は、この生垣の外側に松の大木があり、井口家の神木と称されていたが、これが枯死して以来、この大ツバキを神木の代理として大切にしているという。

竹内家のカキの木

所在地 境南町
所有者 個人
指定 昭和52年(1977)3月14日



樹高約8m、胸高幹囲2.12m、根張り周囲4.9mの禅寺丸という品種の柿の木。竹内家の前庭内にあり、地上高1.55mのところでは北側と南側の二股に分かれている。

植栽された時期は定かではないが、境南町の観音院墓地内にある竹内家墓碑などの調査等により、享保期(1716~1736)の新田開発当時に苗木を植栽したことがうかがわれ、その樹齢は約300年と推定される。

現在も毎年秋には多くの甘い実をならせ、樹勢が旺盛な巨木である。

「ふじの実保育園のフジ」

所在地 緑町3-4-3 ふじの実保育園内
所有者 個人
指定 昭和55年(1980)3月17日



このフジは和名「ノダフジ」(学名Wisteria floribunda)といい右巻きに巻きつく性質がある。

フジ棚(南北約5.5m、東西約7m、高さ1.9m)は、保育園南側園庭のほぼ中央にある。棚が狭いため、枝葉は棚上に盛り上り、蔓の先端部分は傍らの樹木に巻きついている。

胸高幹囲1.27m、根元周囲1.48m、根元より高さ1.6m付近より5幹に分かれ、各幹の太さは0.56・0.47・0.66・0.58・0.64mである。樹齢は約240年と推定される。

通常、フジの古木の幹は数条に分岐しているものが多いが、このフジの幹は根元から棚下まで一本である。

このフジの木は市内随一の古木と評価され、また、所有者の家では昭和26年(1951)以来、ふじの実保育園完成の昭和53年(1978)まで、毎年5月に近隣の人々を集めて「藤見の宴」を開催していた。

吉野家の大ケヤキ (非公開)

所在地 境南町4丁目
所有者 個人
指定 令和5年(2023)7月4日



武蔵境駅から西南西に約900mに位置し、武蔵野スイングホールからも遠望される。樹勢は良好で、境村の歴史を伺える地域景観としての重要性が高い樹木である。樹齢は定かではないが、慶応年間(1865~1868)生まれの6代目当主時代からのものと伝わる。ケヤキの北西には稲荷を祀った築山があり、東側を玉川上水の分水から引いた用水が南北に流れていた。この用水は、昭和初期まで生活用水として使用されており、ケヤキが生育するためにふさわしい土壌や条件をもたらしたものと推測される。樹高約18m、幹周4.5m。
※個人の敷地内のため、道路からの見学が可能。

伊藤家の大ツバキ

非公開

所在地 関前2丁目
所有者 個人
指定 令和5年(2023)7月4日



ヤブツバキ系の一重咲きで、3月頃紅色の花をつける。井口家の大ツバキ同様、大師通り(深大寺街道)の至近にあり、江戸期の歴史的遺産として評価される。昭和28年(1953)当時に樹齢が200年以上であったと伝わる。周囲には鳥居、小祠、ゴルフガーデンのネット支柱があるが、地上の根張りは明瞭でバランスよく、地盤が変わっていないと推定される。枝葉は適度な枝透き剪定が施され、目立った腐朽跡は見られない。樹勢は良好で井口家の大ツバキに次ぐ大木である。樹高約9m、幹周2.2m。

※個人の敷地内のため、道路からの見学が可能。

国指定史跡

玉川上水

所在地 羽村取水口から四谷大木戸までの水路敷のうち、開渠部分の約30.4km(現・武蔵野市、羽村市、昭島市、立川市、小平市、小金井市、西東京市、三鷹市、杉並区、世田谷区、渋谷区)
指定 平成15年(2003)8月27日

江戸幕府の命により江戸市中への給水を目的に、庄右衛門・清右衛門兄弟が請け負い、承応2年(1653)2月に着手、翌年6月に竣工したとされる。武蔵国多摩郡羽村(現・羽村市)の多摩川に取水口を設け、四谷大木戸(現・新宿区)に至るまでの約4.3kmは自然流下による素掘の開渠水路、江戸市中は、石樋・木樋等の暗渠水路で、江戸城・武家屋敷・庶民の居住地等に配水された。また、武蔵野台地の新田開発の灌漑及び生活用水としても機能した。

玉川上水は、優れた測量技術に基づく長大な土木構造物で、近世初期における水利技術を理解する上で重要であるばかりでなく、近世都市江戸の用水供給施設として、武蔵野台地の近世灌漑用水として貴重な土木遺産である。



国指定名勝

小金井(サクラ)

所在地 武蔵野市境橋から小平市小川水衛所までの約6km(現・武蔵野市、小金井市、小平市、西東京市)
指定 大正13年(1924)12月9日



江戸幕府八代将軍吉宗の時代に、玉川上水の両岸に現在の奈良県吉野山や茨城県桜川から移植されたヤマザクラ。サクラはその後にも植え継がれ、江戸東京などからの花見客で賑わった。

都指定有形文化財

江戸氏牛込氏文書

所有者 個人
指 定 昭和27年(1952)11月3日

暦応3年(1340)以降室町時代の江戸氏に関する土地の領有や戦功を賞する文書等7通及び、大永6年(1526)から寛永13年(1636)に至る牛込氏に関する後北条氏の朱印状等の文書15通からなる。中世における在地領主の土地領有や都心部の地名等を徴証する上で重要な史料群である。

都指定史跡

井の頭池遺跡群

所在地 武蔵野市御殿山1、武蔵野市吉祥寺南町1、三鷹市井の頭3・4 井の頭恩賜公園内
所有者 国(関東財務局)、東京都(建設局)、宗教法人大盛寺
指 定 昭和54年(1979)3月31日



井の頭池の外周の高台から斜面にかけて武蔵野市・三鷹市にまたがる約5.5万m²の大規模な遺跡群。主に縄文時代の住居跡や遺物、旧石器時代の遺物が発見されるが、中世段階の遺構や遺物も検出される。武蔵野台地の湧水池周辺の旧石器・縄文時代の代表的な遺跡である。

都指定天然記念物

吉祥寺旧本宿のケヤキ

所在地 吉祥寺本町1-35-12
所有者 法人
指 定 昭和39年(1964)11月21日

高さ29.0m、幹周り5.1mのケヤキ。地上約8mで北側に、同じく9m付近で南側に大枝を分岐し、上部はさらに枝が細かく分かれ繁茂する。



国登録有形文化財(建造物)

濱家住宅西洋館 (内部非公開)

所在地 吉祥寺北町3丁目
所有者 武蔵野市
指 定 平成22年(2010)9月10日

創建：大正後期
改修：昭和40年(1965)・昭和50年(1975)・昭和52年(1977)・昭和60年(1985)・平成10年(1998)・平成25年(2013)曳家工事
特徴：北面が道路に接する矩形敷地の北寄りに位置し、ポーチを東に張り出す。三菱商事がアメリカから輸入したツーバイフォーのプレファブ住宅。外壁は下見板張、木製の上下窓などオリジナルの意匠や部材が多く残る。当初は成蹊学園の学生寮としていた。



国登録有形文化財(建造物)

旧東京市麻布区役所庁舎(日本獣医生命科学大学一号棟)

所在地 境南町1-7-1
所有者 学校法人日本医科大学
指 定 令和2年(2020)4月3日



創建：明治42年(1909)
移築/改修：昭和12年(1937)移築/平成24年(2012)改修
構造及び形式等：木造2階建、金属板葺一部瓦葺、建築面積644m²
特徴：敷地北西端に位置する木造二階建の校舎。L字形の中廊下平面で、屋根はマンサード屋根とする。北西隅の車寄上部二階壁面に切妻の庇を付す。外壁はモルタル塗で腰を石張とし、上下窓を並べる。改修はあるが、都内では唯一の明治期の庁舎建築。創建時と移築時の棟札も伝来する。

国登録有形文化財(建造物)

旧赤星鉄馬邸

内部非公開

所在地 吉祥寺本町4丁目

所有者 武蔵野市

指定 令和4年(2022)10月31日

創建：昭和9年(1934)

アントニン・レーモンド設計による実業家赤星鉄馬の邸宅。中央で屈曲した東西に長い中廊下型平面で、前庭側外観は水平連続窓となっている。庇を出した玄関やその横にあるスリットを入れた曲面壁の階段室など、モダニズム建築を代表する邸宅である。

